

令和8年度 算数科 授業改善プラン

文京区立駕籠町小学校

	児童の実態及び課題	○中心とする単元	授業改善に向けての具体的な手立て	◎ 成 果 ● 課 題
知識・技能	〈3～6年〉 ・ 単元テストの結果から、概ね基礎的な学習は定着している。 ・ 基礎コースと一部の補充コースでは、九九や加減法の確実性や、複雑な応用問題の解法の理解に課題がある。 〈5～6年〉 ・ 作図のやり方は十分に理解できている一方、正確さに課題がある。	○ 3年「わり算」「大きい数のしくみ」 ○ 4年「わり算の筆算」「概数」 ○ 5年「合同」「倍数と約数」「割合」 ○ 6年「対称な図形」「比例と反比例」「体積」	既習の反復学習 前の学年に遡っての復習 〈3～4年〉九九の定着、確実な加減法の習得 〈5～6年〉小数や分数の計算の習得、割合の正確な理解 ワークシートを活用して、作図の経験を何度も重ねるとともに、完成後見直しをする習慣を徹底する。 半具体物の活用と体験的な学習 ・ 繰り下がりなど理解しにくい概念は、計算前に、半具体物を用いて考え方を確認する。	
思考力・判断力・表現力等	〈3～4年〉 ・ 難しい問題に取り組んだり、児童間で多様な考えに触れ自己の考えを深めたりするなど、自分の考えを表現できる児童が多い。友達の意見を聞いて、自分の考えを更新することは課題である。 〈5～6年〉 ・ 最終的に答えを導くことはできているが、式の意味を考えたり、説明したり、図に表したりすることに難しさを感じている児童が多い。	○ 3年「円と球」「三角形と角」 ○ 4年「面積」「直方体と立方体」 ○ 5年「割合」「面積」 ○ 6年「データ」「拡大図と縮図」	交流の場の工夫 ・ ペア、グループ、全体と交流の場を意図的に使い分け、多くの児童が、自分の考えを説明して聞いてもらったり相手の説明を聞いたりできるようにする。 指導の工夫 ・ レディネステストを踏まえ、個々や各コースの学習状況に応じて、教科書の問題と、ワークシートとを組み合わせ、それぞれのレベルに合わせた考えるべき問題を提示できるようにする。	
学びに向かう力・人間性等	〈3～4年〉 ・ 考える活動に意欲的に楽しく学習に取り組む児童が多い。しかし、定着を目指した繰り返しの練習問題に取り組むことには前向きでない児童もいる。 〈5年〉 ・ 問題の解法自体はよく理解しており問題は解けるが、なぜそのやり方で答えが出るのかを追究しようとはしない児童が多い。 ・ 自分の考えを積極的に表現することに課題がある。	○ 3年「わり算」 ○ 4年「わり算の筆算」 ○ 5年「小数のかけ算」	問題について考える過程を重視 ・ ノートに書いた考えを書画カメラで写して説明しあう活動などを取り入れ、解決する過程そのものが学びであると感じられるようにする。その上で練習問題に取り組むことで、考える過程を熟考することで理解が深まったと実感できるようにする。 多様な見方・考え方の重視 ・ 既習問題との相違や題意をしっかりと捉えさせ、児童の考えに対して適切に問い返しを行うなど、直感的に理解していることが、論理的な理解につながるよう、発表の場や机間指導の際に丁寧に児童に接する。	